■鹿島テクニカルセンター合同研修会アンケート　　2026 年 10 月 9 日

□S 造・階段エリア

S 造には沢山のピースが仕込まれているだけでなく、作業する為のステージ・ジョイント部を仮固定用するためのエレクションピースなど、早期に様々な部材の有無や納まりを図面上で決定しなくてはならない事が解りました。
デッキプレートには構造体に含まれない型枠デッキ(F デッキ・トラス付きデッキ)と、構造体に含まれる合成デッキがあり、それぞれのデッキには特性があり、裏側に強度を増すためのリブがついていたり、合成デッキにインサートを打つ場合は深さのある谷側に打たなければいけないなど注意点も学べました。
デッキの敷き方向とスラブ段差の関係の説明がとても勉強になりました。

□RC 造・EV エリア

RC 在来工法と PC 工法の違いを見て、在来工法は建物内部に型枠や支保工にかなりスペースを割かれている事に驚きました。
建物の基礎となるピット部分の杭頭・フーチン・基礎梁・柱の配筋は互いが干渉せず過不足なく施工する事がとても難しい事だと実物を見て良く解りました。沢山の配筋の中に人通口やスリーブがあり、とても複雑でスリーブを 1 つ動かすだけでも簡単な事では無いと、躯体図を見ているだけでは気づけなかった事が解りました。

□外装・屋上エリア

外装は止水・排水がどの工程においてもとても重要で、建物の強度や耐用年数にも関わってくるのでパラペットの防水納まりや、ルーフドレンに水を流すための勾配など具体的に学べました。
ALC と ECP の違いでは、ECP は中が空洞になっていて、その空洞は排水のために利用されるとの事で、排水処理の為に水抜きパイプが必要と言う事を知りました。
室内に明かりを取り込むためのトップライトは立上り部分をラムダ板で隠す納まりになっていて、この納まりは初めて見る事ができました。

□内装エリア

間仕切り壁や天井内の設備配管や電気設備を見る事が出来て、天井下地が配管等を交しながら組まれている所が解りました。
システム天井は、工期短縮・空調や照明の位置の入れ替えが可能・インサートの配置も容易でパネルが外せるのでそのまま点検口になる事で施工図・施工者・メンテナンスにおいてとてもメリットがあると思いました。
機械室では、ウレタン吹付の断熱材とグラスウールボードがあり、グラスウールボードは壁にピンを取り付けてのそ梁に固定している事、グラスウールボードは水を吸ってしまう為、床から浮かせている事を学びました。

□全体

構造から内装まで一通り実寸大のモックアップを見る事が出来て、施工上のポイントを教えて頂きとても勉強になりました。
現場に常駐していても見学出来たのが上棟後や竣工後だったので、配筋や鉄骨を見られたのは貴重な経験でした。
今まで図面を書いていても解らなかった事や、画像で見ただけの物を実際に見る事が出来て理解が深まり、一つの工程・変更などが他へどう影響していくのか考える事が出来ました。
設計図で見る建築用語とその役割や、施工上の注意点、ピースなどの部材が現場ではどう使用されていて、職人さんはどうすれば助かるなど、なぜ必要なのか疑問を持つ事をより意識しようと思いました。
作図する際は想像力を働かせて現場の為になる施工図を書けるようになりたいと思います。

□その他感想や要望等自由記入

施工図は設計図から誰が、いつ、どのように、どうやって、を図面にする仕事と言うお話を聞きました。
設計図を実際に施工出来るようにするのが施工図役割なのだと改めて考えました。
未経験から始めて少しずつですが、自分なりの目標を持って図面に向き合うようになっていますが、
まだまだ目の前の事で手一杯です。
今回の見学で図面に書かれている事には全て意味があり、この図面を見て作業する方が居るという事を意識していきたいと感じました。

・講師の方がモニターで見せてくれた資料を共有して頂けると、見学中や帰宅後も資料を見返す事ができので、助かるなと思いました。

・モックアップでの見学ではノートを持ち込むのが難しかったので、バインダーにはさめるメモ用紙を持っていけば困らなかったなと思ったので、持ち物欄に加えて頂けると助かります。

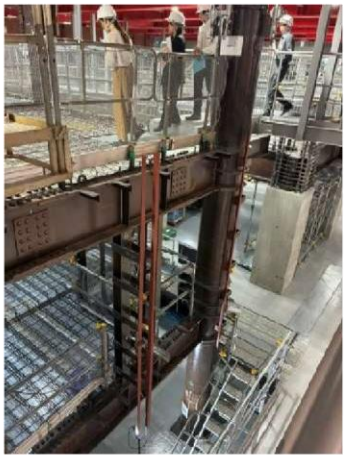
■写真（コメント等自由記載）



押出成形セメント板断面。内部が空洞で水が通せるので、水抜きパイプが設置される理由が理解できました。



ルーフトップのRC立上りにラムダ板(ECP)を貼った納まりを初めて見ました。アゴ部分は防水塗装。



鉄骨大梁。大梁上部の仮設手すりを受けるさや管など、仮設工事用のピースも事前に仕込むそうです。



天井ボードの１枚貼と２枚貼り。１枚貼の時はシングル野縁のピッチに注意する。